

「保育の質」とは？

子どもが経験するということと

“無意識”との関係



コップの中に水が半分入っています。どう思いますか？

- ①まだ半分もある
- ②もう半分しかない

では、どうしてあなたはそう感じたのですか？

もう半分しかない…
たぶん不安遺伝子が
SS型だから…かなあ



脳科学では、そう言うかも…まあ、答えようがないですよ。どうしても、そう思っちゃうわけだから…



楽観的な方がラク～！

頭では分かってるけど、どうしても
もそうなれない…って思う。

だけど不安を感じやすい人って、学校の成績が良いという傾向があるんだって！どっちがいい？じつは『どっちが得か？』という話ではないのだ。人のココロの話、無意識の話なのです。

“無意識”を感じて
みてください～い！



無意識って「無」＝ないわけだから、無いものを意識する、ということ自体おかしい話なわけですが、フシギやフシギ！無意識のニュアンスのようなものは誰もが感じる事ができる！（かな？）

自分の意志とは別に「やっぱり、こっちかなあ～」って感じてしまう…これって＜無意識＞の作用なんです。自分は、自分の意志でいろんなことを決めて生きていると思っている。たとえば、健康診断で…

「採血します。左右どちらの腕でもいいですから、腕を出してください～い」と言われて…



ひだり！

(注射は左腕に決めてるもん！)

と、左腕を出そうと思った 0.2 秒前に脳の中では（左腕を出せ！）と指令が出ているのだそう。つまり、左腕を出すと自分の意志で決める前に、無意識は反応しているというのだ！

その後「どうして左手なのか？」を理性（前頭葉）が「自分は、注射は左腕に決めている」と理由を後付けしている、というのだ。つまり、自分の意志とは関係無く、無意識が（脳が）決めているらしい。

はっきりと意識できるのは、10のうち1弱。9は無意識だから、自分でも気づかないのだ！！



“理性”を持って、自分自身の“意志”で決めてきたはずだ！？

でも、ちがう…

人が選択したり、決めたり、意志を持って行うそこに、どうやら＜無意識＞というものが、なにかしら影響しているらしい。人の“ココロ”を、湖水にたとえると、下のようになる。



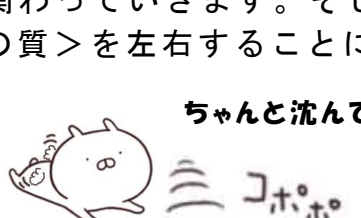
「無意識」という湖底から、水面へ立ち上ってくるナニかが、湖の周りの「判断」「思い」に影響を与える…それならば、無意識という領域が、豊で澄んでいて充実したものになっていることは、私たちが生きて行くにあたって大切なことだと思うのです。

人はいろいろな経験や体験を、無意識という湖に沈み込ませていきます。幼児も同じです。無意識がより良いものになるように、無意識という湖を濁らせ荒れないように、どう沈み込ませていくか…

その結果、無意識という湖が豊で澄んだ充実したものになれば、その無意識から意識へ立ち上っていくものも、良いものになるように思います。“意識”に良い影響を与えていくと思います。

保育者は、子どもが体験したり経験したりしたことを、子ども自身の無意識に沈み込ませる時にいやおなくそこに関わっていきます。そして、その関わり方が＜保育の質＞を左右することになるのです。

ちゃんと沈んでね～



子どもにとって、納得のいく腑に落ちる体験になるようになること。もちろん、割り切れないものはそれはそれとして受けとめ、無意識に沈めていくこともあるでしょう。子どもにどんな言葉をかけることができるのか？言葉にならない言葉以前の思いを共有するか、時には見て見ぬふりして見守ることも

もちろん、保育者がその時どう関わるかも、保育者自身の無意識に左右されます。冒頭にも「無いものを意識するのは難しい…」と言いましたが、自分の中に無意識があり、その無意識を意識して生きていくようにしたいと思うのです。（保育者としても）

